



オンライン公開 研究会のご案内

第58回 中学校教育研究会



| 教科・領域 | 日付 | 教科研究主題 ～ 副題 ～ | |
|-------|-------------|---|-------------------|
| | | 内容 | |
| | | 共同研究者 | 指導助言者 |
| 社会科 | 6/24 (金) | 予測困難な時代を生きぬく生徒の育成 ～「学びに向かう力」の育成をめざして～ | |
| | | 単元・授業づくりを通して、社会科学習における思考過程を意識しながら、「学びに向かう力」を育成する手立てについて追究していきます。 | |
| | | 千葉大学教育学部 戸田 善治 先生 千葉大学教育学部 阪上 弘彬 先生 | 千葉県教育庁 宮川 祐一 先生 |
| 数学科 | 6/24 (金) | 中学校数学科における「自己評価活動」に焦点を当てた問題解決能力の育成 ～自己調整学習と関連づけて～ | |
| | | 一年次研究では、自己調整学習の三つの段階と Polya の問題解決過程を関連づけました。二年次研究では、三つの段階がより長いスパンでまわる学習サイクルを想定し、新たに加えた「自己評価活動」の取組について紹介します。 | |
| | | 千葉大学教育学部 松尾 七重 先生 千葉大学教育学部 辻山 洋介 先生 | 千葉市教育委員会 松永 武洋 先生 |
| 理科 | 6/24 (金) | 答えのない問いに科学的思考を基に判断ができる生徒の育成 ～日々の授業と科学的リテラシーをつなぐカリキュラムマネジメントに着目して～ | |
| | | 先行きの見えない時代を生きる生徒たちに必要と考えられる力の習得に対して、理科という教科の独自性からアプローチしていきます。具体的には、科学的リテラシーを高める深い学びを実現することをねらいとした授業を行います。 | |
| | | 千葉大学教育学部 大島 竜午 先生 | 千葉市教育委員会 鈴木 啓督 先生 |

HP アドレス <http://www.jr.chiba-u.jp/>

参加費 無料

後援 千葉県教育委員会 千葉市教育委員会
千葉県教職員組合 千葉市教職員組合 千葉県教育研究会

お申込 ホームページ掲載の専用フォームからお申し込みください。
準備の都合上、開催日の1週間前を申し込み締め切りとさせていただきます。

ご注意 本研究会で配信される授業・協議会の PC・スマートフォン・録音機器・録画機器等による記録・保存は禁止いたします。この点をご承諾いただいた上でお申し込みください。



お問い合わせ TEL : 043-290-2493 Mail : kaz.yoshimoto@chiba-u.jp 担当 実行委員会 吉本

| 教科・領域 | 日付 | 教科研究主題 ～ 副題 ～ | |
|----------------|------------|--|-------------------|
| | | 内容 | |
| | | 共同研究者 | 指導助言者 |
| 保健体育科 | 8/2 (火) | “みる”力を培う体育学習のあり方 運動学的な視点を通して“みる”力を培う授業が、どのように三つの資質・能力と関連し、授業の在り方として良いのかを検討していきます。 | |
| | | 千葉大学教育学部 西野 明 先生 | 千葉市教育委員会 藤瀬 研吾 先生 |
| 国語科 | 8/2 (火) | アクティブに言語運用する学習者の育成 生徒が主体的に生き生きと言語を活用する単元づくりに必要なのは、「ちょっとした工夫」があること。本研究会では、どんな工夫ができるのかこれまでの実践を振り返りながら考えます。 | |
| | | 千葉大学教育学部 寺井正憲 先生 | 千葉県教育庁 深澤 宏彰 先生 |
| 英語科 | 8/2 (火) | DDL を用いたハイブリッド英語学習システムの効果とその活用 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を組み合わせた「新しい学習様式」～ | |
| | | 本研究では、DDL（データ駆動型学習；Data Driven Learning）支援ツールを活用して、「個別最適な学び」と「協働的な学習」を組み合わせた実践を提案し、その効果を検証します。 | |
| 心理教育 (技術分野) | 8/2 (火) | 中学校教育課程での心理教育の検討～心理教育の視点での授業づくり～ 心理教育を教科と保健指導の中で具現化することを通して、生徒にとってよりよい「主体的・対話的で深い学び」を検討しました。本研究を進めるにあたっては、教科教育だけの知見を取り入れるだけでは困難であり、教育心理学が専門の先生と教科教育が専門の先生方の協力を仰ぎながら研究をすすめています。研究をすすめる中で明らかとなった、教科の授業で役立つ知見を積極的に報告させていただきます。 | |
| | | 琉球大学大学院高度教職実践専攻 道田 泰司 先生 | 千葉大学教育学部 小山 義徳 先生 |